

④発明の名称 自動変速装置のエンジンストップ防止方法

60809-60809

出 版 日 期 昭和六十(一九八五)三月二十七日

④免 明 者 立 野 敏 昭 三菱自動車工業株式  
会社東京自動車製作所丸子工場内  
東京都大田区下丸子四丁目21番1号

明老恩淵 州府 三夢自動車工業株式

会社東京自動車製作所丸子工場内

三菱自動車工業株式会社  
東京都港区芝5丁目3番8号

⑧代理人 井理士 光石 士郎 外1名

ストッパ防止回転数より大きく設定したとき特徴とするエンリンストッパ防止方法。

### 3. 発明の詳細な説明

入道次第の上げ値

本取組は、エンリッパの二つの風を同時に利用して電力を発生し、これを電力として送電する。この電力は、エンリッパの二つの風を同時に利用して電力を発生し、これを電力として送電する。

△ 聖徳太子の御説 △

近年、大型船舶の自動操縦装置等における造船者の技能向上を目的で、専門の学校にむいたキヤンペーン活動が盛んに行われている。

従来の自動変速機構は、専ら小型の乗用車を対象としたものであり、エンリントン変速機は変速機構との間にトルクコンバータ等の流体継手を介させ、圧油を制御媒体としていた。

原簿單式變遷圖のギヤ位置切換手段を見込んだ型式のものが一般的である。

＜疑問が解決しようとする問題点＞

大型自動車等と対峙したとして、車両の生産量を削減する上で重要なことは、車両の生産台数が急用車と就べて著しく少ないことから、両車は同一プラットフォーム等を新たに設計すること、これはコストの面で極めて不利となり、従来からある生産設備を含めて専用クラッチや変速機構の駆動系をそのまゝ用いることが望ましい。

太陽明かせる知見に基づき、従来のような監視系をそのまま使って電子制御により円滑な交通環境を自動的に提供できる自動運転車を提供し、更にはそのエンリッチメント向上方法を提供することを目的としている。

に問題点を解決するための手段へ

本発明の自動搬送装置の駆動制御方法は、

[illegible][illegible]

△區 製 機

本発明方法を実現する自動変速装置の一実

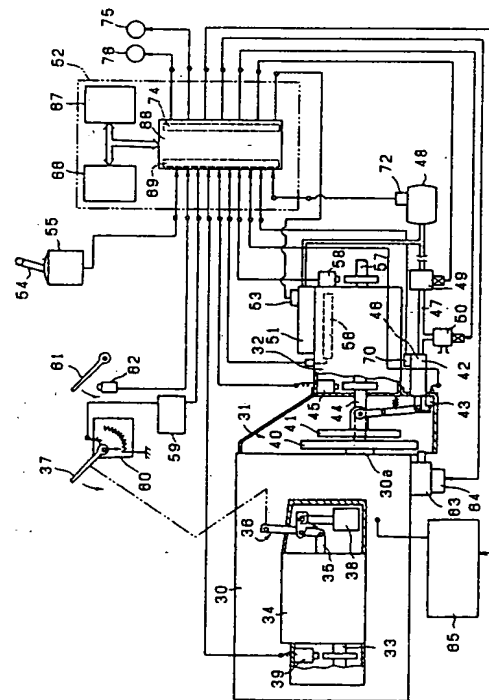








第 1 圖



65

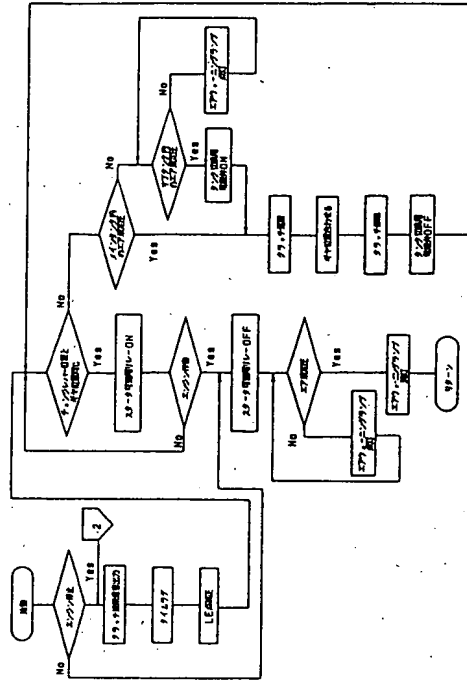


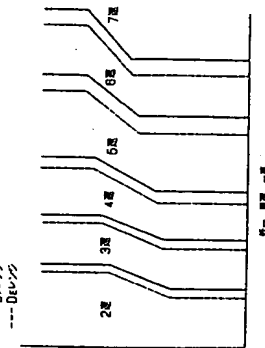
图 2-4



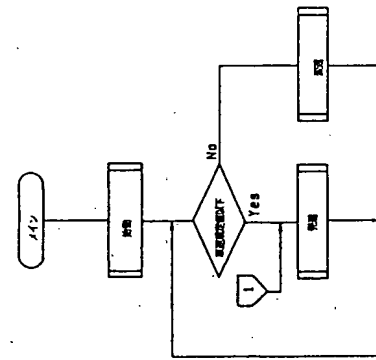
4



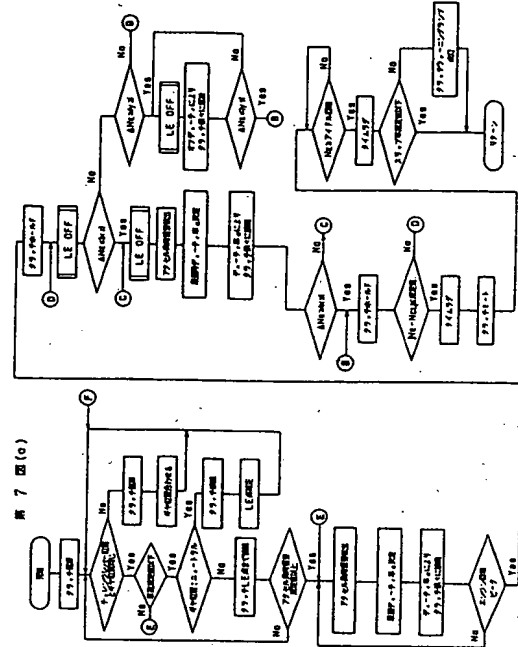
333



5 第 5 章



第 7 圖(○)





6. 補正の列挙

明細書の発明の詳確な説明の爲、及び図面。

7. 補正の内容

(1) 明細書第6頁第10行目〜第13行目に記載した「リンク36を介して…連続され、」を「リンク36を介して電磁アクチュエータ38が連続され、」と補正する。

(2) 明細書第7頁第4行目に記載した「供給状態をON/OFF作動により」を「供給状態をクラッチストローク量により」と補正する。

(3) 明細書第7頁第5行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(4) 明細書第7頁下から第8頁上から第8頁第1行目に記載した「内部エア圧が…ON信号」を「クラッチストローク信号」と補正する。

(5) 明細書第8頁第1行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(6) 明細書第11頁第7行目〜第8頁第1行目に記載した「リンク36を介して」を附録する。

(7) 明細書第12頁第2行目〜第3頁第1行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(8) 明細書第13頁第4行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(9) 明細書第19頁下から第20頁第1行目に記載した「出力軸30aが駆動クラッチ31を」を「出力軸30aの回転が駆動クラッチ31を」と補正する。

(10) 明細書第21頁第10行目に記載した「戻道レロック」を「戻道レロック」と補正する。

(11) 明細書第22頁最下行に記載した「戻道時間」を「戻道時間」と補正する。

(12) 明細書第27頁下から第28頁第1行目に記載した「戻道値を上回って…」を補正する。

手続補正書

昭和60年8月30日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

昭和60年特許第80809号

2. 発明の名称

自動変速装置のエンリッチメント防止方法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

東京都港区芝五丁目3番8号

(828) 三菱自動車工業株式会社

4. 代理人

郵便番号107

東京都港区赤坂一丁目9番15号

日本放送放送金庫

電話 (583) 7058番

(9151) 井野士 光石 氏

事務所 井野士 光石 氏

(7104) 井野士 光石 氏

補正命令の日付

日 期

した「リンク36を介して」を附録する。

(7) 明細書第12頁第2行目〜第3頁第1行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(8) 明細書第13頁第4行目に記載した「クラッチエンゲージ70」を「クラッチストロークエンゲージ70」と補正する。

(9) 明細書第19頁下から第20頁第1行目に記載した「出力軸30aが駆動クラッチ31を」を「出力軸30aの回転が駆動クラッチ31を」と補正する。

(10) 明細書第21頁第10行目に記載した「戻道レロック」を「戻道レロック」と補正する。

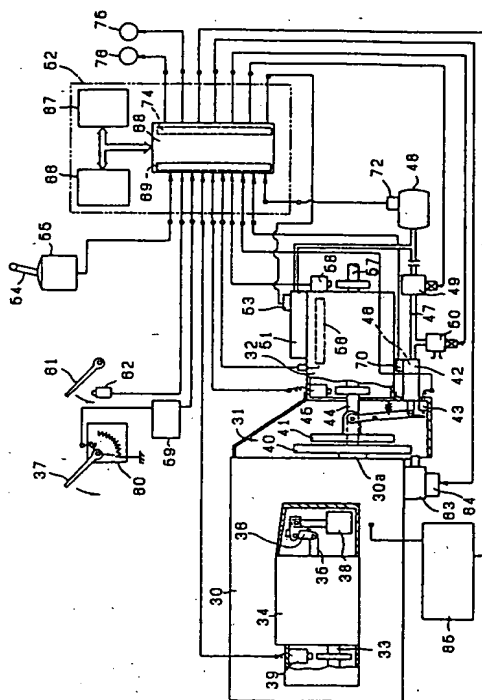
(11) 明細書第22頁最下行に記載した「戻道時間」を「戻道時間」と補正する。

(12) 明細書第27頁下から第28頁第1行目に記載した「戻道値を上回って…」を補正する。

記載した「戻道値を上回って…」を補正する。

記載した「戻道値を上回って…」を補正する。

第1図



第9図

